

平成30年度～令和元年度石川県社会教育委員の会議のまとめ(概要)

「地域の社会教育関係団体の現状と今後の課題について」 ～人口減少と少子高齢化時代を踏まえて～

〈第1回〉 平成30年7月11日(水) 社会教育や社会教育関係団体の現状や期待される役割について

「社会教育関係団体の未来 ～いま、期待される役割を踏まえて～」

全国社会教育委員連合 副会長 馬場 祐次郎氏による講義

【講義から】

- ・団体が活動を通じて社会的にどのような成果を上げたのか、貢献したのかが問われていると考えるべきであり、絶えず活動内容・状況を評価し、団体の内外(団体のメンバーにも情報の共有は重要)に発信していくことが大切である。
- ・地域が抱える課題の解決にNPO等様々な集団が関わっている。そうした集団と連携・協働し、地域の共通課題の解決に資することができれば、自らの団体の存在意義が広く周知され、そうした活動に興味・関心のある新たなメンバーの加入・獲得につながる。



【委員の意見】

- ・若者には、いろいろなコミュニティがある。既存の枠組みではなく、新しい視点でコミュニティをいかに繋いでいくかが大切である。
- ・PTAにおいて活動の意義が問われている。大人の学びの場でもあり、自己成長の場として捉えて活動に参加して欲しい。

〈第2回〉 平成30年10月10日(水) 「地域の社会教育関係団体の現状について 県内2団体の実践事例」

金沢市新堅町公民館

「地域に根ざした活動 これまでとこれから」

- ・子どもが中学校を卒業した保護者においては、地域との関わりが途絶えてしまう現状があるので、公民館において青・壮年部を設けることで、地域の活動に取り込みたい。

白山市青年団協議会

「白山市青年団協議会の復活からみる連合団体の価値」

- ・白山市青年団協議会とワカモノの会には、連携することによるメリットが双方にあり、連携がうまく進んだ。



【委員の意見】

- ・団体は高齢化している。そこに若い世代の思いをどうやって反映させて団体活動を進めていくのかは、それぞれの団体の課題である。
- ・白山市青年団協議会は地域に入り込み、つながりを持ちながら若者を協議会に取り入れていったが、連携を進めるには、連携することによるメリットが双方にあることが重要である。
- ・人口減の中、活動を継続していくためには、より多くの人に団体の活動を理解していただく必要がある。そのためには、自分たちの団体の原点に立ち戻り、目的を再考し、団体の存在意義や組織、活動内容等を再検討する。その上で青壮年層等にしっかり説明することが大切である。

〈第3回〉 平成31年1月15日(火) 「地域の社会教育関係団体の現状について 県内1団体の実践事例」

金沢市校下婦人会連絡協議会 「私たち 金沢市校下婦人会連絡協議会の活動について」

- ・防災、環境、健康といった「より良い地域づくり」につながる身近で関心の高いテーマを取り上げることが、住民の学びや活動への参加のきっかけになる。

【委員の意見】

- ・PTAのOBを役員に迎えるということは今後考えられると思う。役員が単年度で変わることが多く、新しい事業を行ったり改革したりすることが難しい状況がある。
- ・シンポジウムを行ったことで横の繋がりができ、それぞれ会員数は少ないが、何か行うときには手伝うぞという連携ができた。横の連携をとるキーマンがいてくれたおかげだと思っている。



〈第4回〉 平成31年3月18日(月) 「地域の社会教育関係団体の現状について 県内2団体の実践事例」

石川県PTA連合会

「What's PTA

～PTAの現状と今日的課題～」

- ・県P連の存在意義と役割を再確認し、事業・実務の見直しを図るなど中長期的な未来像を作り上げることを目的に、未来像検討会議を発足させ、目的に照らして事業内容を精査した。

NPO法人かもママ

「地域まるごと お互いさまの支え合い」

- ・行政と連携して地域課題に取り組んでいるが、地域の中で、同じ目的で活動している大小様々な団体を把握し、コーディネートすることを通じて連携を強化している。



【委員の意見】

- ・PTA活動が親育ちの場になるように、学校から保護者の方へ呼びかけ、雰囲気醸成していきたいと思う。
- ・多くの団体が存在する中、それぞれの団体に仕事や役割が増え、マンパワーが必要になると、連携をとることも大変なのではないか。団体の整理統合等も検討する必要があるのではないかと。

かほく市教育委員会

「地域で活躍する人材育成の現状と課題」

- ・青壮年層や若者(高校生、大学生等)に企画段階から地域づくりへ参画する機会や自分たちの思いを具現化する機会を提供することを通じて、青壮年層の地域活動への参画意識を促進することが有効だと考える。

金沢市南小立野小学校育友会

「南小立野小学校育友会における組織活性」

- ・自分たちの組織を自己点検し、「できるひとが、できるときに、できることを」という原点に立ち帰り、役員の数見直しから育友会組織の活性化を図ることができた。

【委員の意見】

- ・緩やかな関わりを認めることで組織の強化を図っている。
- ・コミュニティ・スクールの取組によって、子どもたちや学校のために地域の団体が集まり会議の場で議論したり一緒に活動したりすることがきっかけとなり、団体同士の連携が進んできたという話を聞いている。



「地域の社会教育関係団体の現状と今後の課題について 人口減少と少子高齢時代を踏まえて」

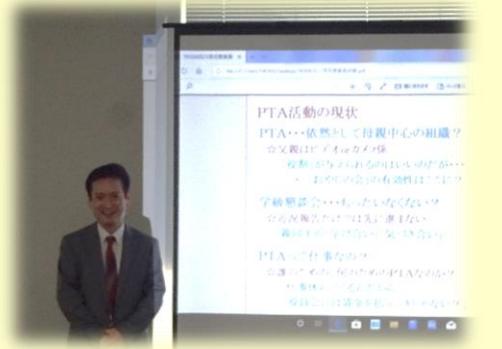
香川大学地域連携・生涯学習センター長 清國祐二教授による講義

【講義から】

- ・「与えられた豊かさ」の中で過ごすことによる「想像力の欠如」が、世の中をぎくしゃくさせる一つの要因となる。人生初期の青年団やPTA活動において多くの人がいろいろな役割を担い「人にお世話をする」経験を積むことが大切である。
- ・島根県では、中山間地域のほとんどの高校で、地域について考える部活動を作って地域の課題に関わるということを進めている。これは、未来の青年団、PTA活動に携わる人を育てることにもつながる。

【委員の意見】

- ・市町の社会教育委員が地域の実情を踏まえて、地域課題への取組等について意見交換することもよい方法なのではないか。



福井県越前市岡本公民館

能登島地域づくり協議会

輪島市二又川青年団

YAZZO! 能登町青年会議

福井県福井市清水西公民館

白山市社会教育委員の会議

金沢市市民活動サポートセンター

【委員の意見】

- ・若い人たちが地元に戻ってきてくれないと団体のメンバー不足になる。能登町では、高校生に対して地域を学ぶ機会を設けており、地元に対する愛着を醸成することを通じて、地元へのUターンを促進したいと考えている。

協議・検討の内容

- 【1】各団体の役割・組織及び構成層の現状はどうか
- 【2】各団体は他の関係団体とどのように関わっているか
- 【3】各団体は地域課題にどのように向き合おうとしているか



期待される活動の方向性

方向性1 団体の役割自覚・組織強化と青壮年層の参加促進

- ①組織・活動の自己点検・自己評価と「緩やかな関わり」を認める組織運営
- ②青壮年層の地域づくりへの参加奨励及び参画機会の提供
- ③社会教育活動の入り口となる青年団やPTA活動の充実

方向性2 他団体との連携・協力、協働の促進

- ①地域の団体間における「顔の見える」関係づくり
- ②地域全体で協力体制を整える
- ③組織、事業の見直しによる連携・協働の促進

方向性3 地域課題への関与と人材育成

- ①地域課題に向き合う意識啓発に資する研修・学習会等の開催
- ②地域課題解決に向けての市町社会教育委員の関与
- ③地域課題解決のための団体間のマッチング
- ④団体活動の調整を図る社会教育士・社会教育主事やファシリテーターの育成・活用



平成30年度～令和元年度 石川県社会教育委員の会議のまとめ

地域における社会教育関係団体の課題と今後期待される活動の方向性について ～人口減少と少子高齢化時代を踏まえて～

- 1. 内容：社会教育関係団体の実践事例及び協議内容並びに期待される活動の方向性
- 2. 配付先：市町教育委員会、社会教育関係団体等
- 3. 活用例：各々の地域や団体の実情に応じて社会教育関係団体の今後の在り方について検討いただく際の参考とする